北九州市後期中等教育に関する検討会議

令和2年5月19日～
第2回北九州市後期中等教育に関する検討会議
資料1

「高校魅力化評価システム」の分析結果から考える今後の高校組織の「あり方」への問い

三菱UFJリサーチ＆コンサルティング
政策研究事業本部　地域・社会に開かれた教育支援室
副主任研究員　喜多下　悠貴

三菱UFJリサーチ＆コンサルティング

MUFG

本資料の要旨

■ 本資料を通してご紹介したい、考えたいのは以下の論点です。

✓ 今後の後期中等教育機関の「あり方」を考える上では、学科やカリキュラムで表現される「何を教えるか」だけでなく、それを「どのような環境で」教えるかといった、教職員集団あるいは学校組織としての環境、土壌づくりを合わせて検討する必要がある。

✓ 豊かな土壌づくりには、生徒だけでなく、教職員をはじめとする大人自身が主体的・対話的・探究的に学び、地域・社会に開かれていく必要がある。

✓ 市立学校の継続的な「魅力」創出には、学習環境の豊穣化、すなわち（教職員に限らない）生徒を取りまく大人の魅力化が必要。いかに「大人の学びを止めない」仕組み・仕掛けを、生徒の学びの保障との両輪で考えることができるだろうか？

✓ また、大人も共に学び、成長する（＝学習環境の豊穣化）学校であること自体を、市立高校の魅力として外部に効果的に訴求できないか？

I.　前提：高校魅力化評価システムとは

高校魅力化評価システムとは

■ （一財）地域・教育魅力化プラットフォームと三菱UFJリサーチ＆コンサルティング（株）が共同で開発した、高校の魅力化に取り組む学校、地域、生徒の現状と変化を「見える化」するための生徒向け及び大人向けのアンケート調査。

□ 誰に？（想定する利用者）

・ 「地域・社会に開かれた教育課程」の実現に向けて取り組んでいる、またはこれから取り組もうと考えている高校・地域、それを支える自治体（教育委員会や首長部局）

□ 何を評価する？（評価の内容）

・ 対象となる高校生の「資質・能力」「成長」を多面的な観点から「見える化」
・「主体的、対話的で深い学び」に関する生徒の学習活動の取組状況を「見える化」
・ 生徒を取りまく「学習環境（学びの土壌）」を「見える化」

□ 何のために？（評価の目的）

・ 高校、地域、生徒の現状を「見える化」し、定量的なエビデンス（証拠）に基づいた 授業改善・カリキュラム開発、生徒との関わり方の設計や、地域協働のあり方の検討に役立てる。

高校魅力化評価システムは、高校や地域といった、「組織・集団の状態を見える化」するための評価の仕組みです。

高校魅力化評価システムで把握する観点

アンケートでは、5つの点を調査し、実態を把握します

①生徒の学習活動

②地域の学習環境（学びの土壌）

③生徒の能力認識（生徒の成長）

④生徒の行動実績

⑤生徒の満足度

高校魅力化評価システムで把握する観点

4 つの資質・能力をベースにしています

主体性

協働性

探究性

社会性

✓これからの社会で求められる、４つの資質・能力をベースとして、質問を構成。

高校魅力化評価システムで把握する観点

5つの観点×4つの資質・能力　でアンケート項目を構成しています。

生徒向け調査の構造	主体性	協働性	探究性	社会性
①生徒の学習活動	・主体性に関わる学習活動の量	・協働性に関わる学習活動の量	・探究性に関わる学習活動の量	・社会性に関わる学習活動の量
②地域の学習環境	・主体性に関わる学習環境の質	・協働性に関わる学習環境の質	・探究性に関わる学習環境の質	・社会性に関わる学習環境の質
③生徒の能力認識（主観評価）	・主体性に関わる生徒の自己認識	・協働性に関わる生徒の自己認識	・探究性に関わる生徒の自己認識	・社会性に関わる生徒の自己認識
④生徒の行動実績（客観評価）	・主体性に関わる生徒のここ1カ月の行動	・協働性に関わる生徒のここ1カ月の行動	・探究性に関わる生徒のここ1カ月の行動	・社会性に関わる生徒のここ1カ月の行動
⑤生徒の満足度	高校、自身の生活等に関わる総合的な評価			

高校魅力化評価システムの調査項目（概要）

①生徒の学習活動

授業、総合的な学習、学校設定科目など、学校における様々な学習活動の中で、生徒が行っている学習活動の頻度を尋ねています。
【どう使う？】
他地域や学年の差などから、様々な学習活動の量・質の違いを確認することができます。

主体性

- 自主的に調べものや取材を行う
- 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く

探究性

- 自分の考えを文章や図表にまとめる
- 話し合った内容をまとめる
- 活動、学習のまとめを発表する
- 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う

協働性

- グループで協力しながら学習や調べものを行う
- 活動、学習内容について生徒同士で話し合う
- 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う

社会性

- 地域の魅力や資源について考える
- 地域の課題の解決方法について考える
- 日本や世界の課題の解決方法について考える

高校魅力化評価システムの調査項目（概要）

②地域の学習環境（学びの土壌）

生徒の周囲（学校や地域社会）における、広く学習活動等に係る人との関係性や、機会、雰囲気の有無について尋ねています。
【どう使う？】
他地域との差などから、地域社会を含めた学習環境の豊かさや、まちの特徴を見出すことができます。

挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」

- 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある
- 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
- 目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる
- 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる
- 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある
- 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる

協働を生む「多様性の土壌」

- 人と違うことが尊重される雰囲気がある
- ありのままの自分が尊重される雰囲気がある
- 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある
- 立場や役割を超えて協働する機会がある

高校魅力化評価システムの調査項目（概要）

②地域の学習環境（学びの土壌）

生徒の周囲（学校や地域社会）における、広く学習活動等に係る人との関係性や、機会、雰囲気の有無について尋ねています。
【どう使う？】
他地域との差などから、地域社会を含めた学習環境の豊かさや、まちの特徴を見出すことができます。

問う・問われる「対話の土壌」

- 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
- 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる
- 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる
- お互いに問いかけあう機会がある

地域や社会に「開かれた土壌」

- 地域から大切にされている雰囲気を感じる
- 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる
- 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある
- 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある

高校魅力化評価システムの調査項目（概要）

③生徒の能力認識（成長）

生徒の、資質・能力に関する主観的認識・評価について尋ねています。
【どう使う？】
主観的評価になるため一定の留意は必要ですが、主体性、協働性、探究性、社会性に関する生徒の認識を確認することができます。また、経年での意識の変化を見ることもできます。

主体性

【構成要素】
・自己肯定感・自己有用感
・課題設定力
・行動力
・粘り強さ

探究性

【構成要素】
・学びの意欲
・情報活用能力
・批判的思考力
・省察力

協働性

【構成要素】
・受容力
・対話力
・表現力
・共創力

社会性

【構成要素】
・地域貢献意識
・社会参画意欲
・グローカル意識
・持続可能意識

高校魅力化評価システムの調査項目（概要）

④生徒の行動実績

ここ最近（1ヵ月以内）の生徒の実際の行動の有無について尋ねています。
【どう使う？】
主観的評価になる「③生徒の能力認識」を補完するものとして、主体性、協働性、探究性、社会性に関する客観的、具体的な行動の量を確認することができます。

主体性

・授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた
・授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った

探究性

・授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした
・公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした

協働性

・自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた
・友人などから、意見やアドバイスを求められた

社会性

・いま住んでいる地域の行事に参加した
・地域社会などでボランティア活動に参加した
・先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした

II.　高校魅力化評価システムの分析から得られた示唆

高校魅力化評価システムの分析から得られた示唆

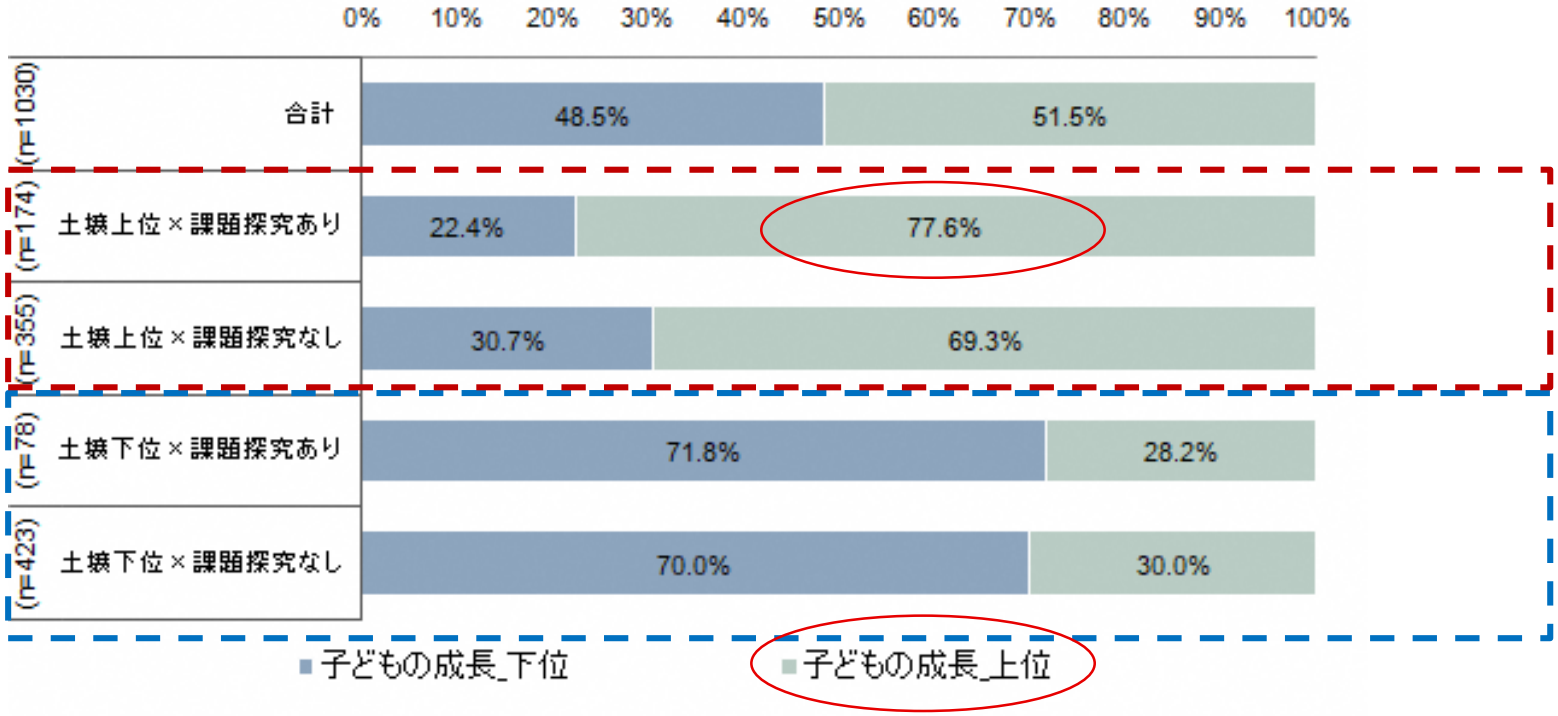
① 「何を学ぶか」だけではなく、「どのような環境で学ぶか」との相乗効果が重要

■ 主体性、協働性、探究性、社会性に係る生徒の自己能力認識（＝子どもの成長）を得点化し「上位／下位」に2分類し、それぞれの割合を、「課題探究学習（PBL）を受けているか（あり／なし）」と、「学びの土壌（p8~9参照）の高低（上位／下位）」の組み合わせからなる4類型ごとに算出した。

「課題探究学習の頻度×学びの土壌」 と生徒の成長（認識）指標

✓学びの土壌が高いところでは、課題探究を行うと生徒の成長認識が高まる

✓学びの土壌が低いところでは、課題探究のありなしが生徒の成長に影響を与えない



注）調査対象は国公立高校在籍の現役高校生（515名）＋20歳以下の公立高校出身（既卒）者（515名）

資料）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング「高校生活と地域に関するアンケート調査」（2018）

✓ 学びの土壌が豊かではないところ（土壌下位）では、探究学習のありなしに関わらず、子どもの成長認識は低くなっている

✓ 学びの土壌が豊かなところ（土壌上位）では、課題探究学習がある場合、より子どもの成長認識が高くなっている傾向が見られる。

➡単に課題探究学習を実施すれば生徒が成長するのではなく、学びの土壌が豊かな上でこうした学習を実施することが重要であることを示唆